

【取組のポイント】

- ため池管理者への説明において、紙芝居を活用し、以下の内容等を説明。
 - ・ため池決壊のメカニズム。
 - ・ため池被害の実例（写真）。
 - ・ため池管理の重要性。等

【サポートセンター等の概要】

- 運営体制：4名（所長(兼務)、専属2名、兼務1名）【R6.4時点】
- 活用事業：農業水路等長寿命化・防災減災事業
- 令和5年度取組実績
 - ・現場パトロール1,276箇所
 - ・管理者等からの相談対応33件
 - ・点検時における管理者への指導4件
 - ・ため池管理者向け講習会6件
 - ・災害研修会1件
- 防災重点農業用ため池数
1,239箇所【R6.4時点】

■ 管理者向け
講習会の様子



【取組前の状況や課題】

- 農地の荒廃や宅地化等によりため池関係受益者が減少しており、少人数でのため池管理に限界。
- 特に、個人及び団体で管理しているため池において高齢化が顕著となっており、ため池管理者の認識不足（危険性の判定や危険回避の方法等）が深刻な課題。

【取組の内容】

- ため池管理に関する管理者の認識不足を解消するため、現場パトロールや管理者等からの相談対応を現地で行う際には、説明資料や担当者からの言葉だけでなく、目で見てため池管理の重要性がわかるように工夫。
- 具体的には、A3版程度の紙芝居で、「ため池決壊のメカニズム」、「ため池の決壊事例」、「日常管理のポイント」等を説明。
- 困った時はサポートセンターへ相談するように指導を実施。



■ 紙芝居を活用した管理者への説明状況（左）と紙芝居で使用している事例（右）

【取組の効果】

- ため池決壊のメカニズムや決壊後の下流域被害事例等を紙芝居で見ながら聞くことにより、ため池管理の重要性を再認識。
- ため池の日常管理のポイントを説明することにより、日常管理の留意点を適切に把握。

ため池管理体制 の強化

【石川県】ため池管理者の交代等に伴う技術の継承を円滑にする ための取組事例

【取組のポイント】

- 人口減少や高齢化等により、ため池管理を1人で行っている場合や、ため池管理を自治会長が持ち回りで担当している場合が多く、ため池管理者の管理意識が希薄な状況が散見。
- ため池の管理マニュアルや作業日報、点検表等を綴じた「ため池の管理・点検簿」を管理者に配布することで、ため池管理に関する意識の向上を図るとともに、ため池管理者の交代に伴う技術の継承がスムーズに行われることを期待。

【サポートセンター等の概要】

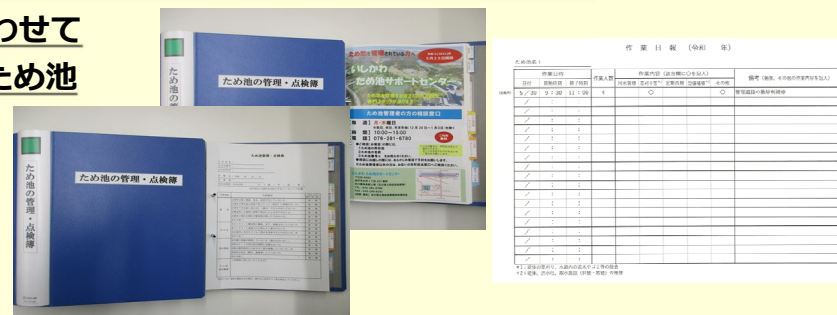
- 運営体制：11名（センター長含む専属2名、兼任9名）
- 活用事業：農業水路等長寿命化・防災減災事業
- 令和5年度取組実績
 - ・現場パトロール108箇所
 - ・管理者等からの相談対応11件（うち5件は現地対応）
 - ・管理者研修会への講師派遣7回
- その他：防災重点農業用ため池数1,179箇所（R6.3時点）

【取組前の状況や課題】

- 県内の約8割のため池が築造されている能登地域では、人口減少、高齢化が顕著で、用水管理を1人で行っているため池も多い。
- 持ち回りの自治会長がため池管理者の場合、高齢を理由に、定期点検のためにため池へ足を運ぶこと自体が困難であるため、管理を受ける人がいないといった状況が散見される。
- 1～2年でため池管理者が交代するため、既に管理するため池が防災重点ため池かどうか分からないため池管理者が増えている。

【取組の内容】

- 管理者の交代に伴う技術継承を円滑に進めるため、管理マニュアル、作業日報、点検表等を綴じた「ため池の管理・点検簿」をため池管理者に配布。また、ハザードマップなども綴込み、非常時の対応等ため池に関する情報を網羅。
- 集落毎の持ち回りのため池管理者向けだけでなく、1人でため池を管理しているところも多いため、通常のため池管理者向けにも同様の資料を配布。
- 点検表や作業日報をあわせて配布することにより、ため池管理者が点検した結果を記入できるよう工夫。



■ため池管理者に配布した「ため池の管理・点検簿」

【取組の効果】

- 「ため池管理・点検簿」を配布することにより、ため池管理者の意識の向上とともに、ため池管理者による定期点検の技術力の向上を図る。

【香川県】市町等が行う防災訓練と連携し、 ため池のハザードマップを周知する事例

【取組のポイント】

- 防災重点農業用ため池のハザードマップの周知等を行うため、市町等が行う防災訓練に併せ、サポートセンターが、ハザードマップに係る説明や情報収集方法、避難時の注意点について説明等するもの。

【サポートセンター等の概要】

- 運営体制：5名
 （センター長（兼任）：1名
 担当者：専属3名、兼任1名）
- 活用事業：農業水路等長寿命化・防災減災事業
- 令和6年度取組実績（見込）
 - ・ 現場パトロール1,096箇所（管理状況調査696箇所、指導・助言400箇所）
 - ・ 管理者等からの相談対応30件
 - ・ 管理者説明会7件
 - ・ ハザードマップを活用した防災訓練4件
- 防災重点農業用ため池数 3,107箇所（R6.5時点）

■ 避難場所の
現地確認状況

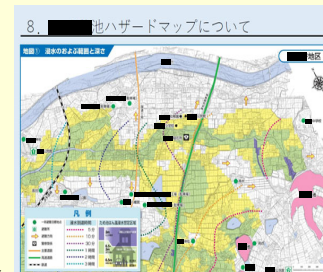


【取組前の状況や課題】

- ため池のハザードマップについては、令和5年度までに県内694箇所で作成され、市町により住民への公表を行ってきたが、発災時において、住民の避難行動が迅速かつ円滑に行えるよう、住民参画型の取組が必要となっている。

【取組の内容】

- サポートセンターが、市町防災部局や農林部局、防災士等と協議し、資料の作成と説明を実施。
- 説明では、参加者に関心を持ってもらえるよう、身近にある防災重点農業用ため池のハザードマップを活用。
- ハザードマップの説明のほか、「かがわ防災Webポータル」や県の防災情報メールから情報収集する方法の紹介、参加者と一次避難場所の現地確認等を行った。



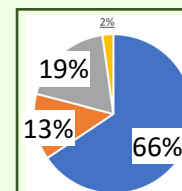
■ 説明資料（抜粋）

【取組の効果】

- 令和6年度までに7地区で実施し、住民の防災意識やため池ハザードマップに対する認識が向上するとともに、災害時におけるため池の危険性、決壊時の危険箇所等の理解の促進に繋がった。

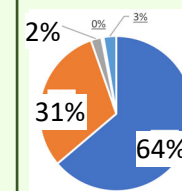


■ 訓練参加者への説明状況



Q) ため池ハザードマップが作成されていることを知っていたか

● 知っていた
● 今回思い出した
● 知らなかった



Q) 今回の訓練は命を守る行動に役立つか

● 役に立つ
● ある程度役に立つ
● あまり役に立たない

■ 参加者へのアンケート結果（抜粋）